






殺したい男に
抱かれて感じる訳
ないじゃないですか




ライとは昔
何度か寝たことが
あった



男の趣味が
あるのかと聞けば
ないと答えは
彼の手つきは



まるで割れ物を
扱うかのよう
丁寧に優しく

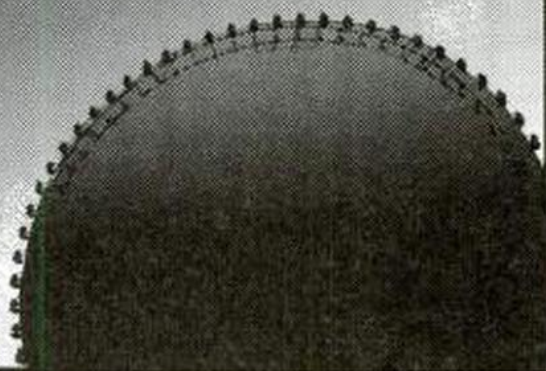


こんな優しい男
の死を止める
ために
こんな優し
い男の死を
止める
ために
許せなくて

その感情は
憎むことでしか、

昇華出来なかった

…そうか
風見も無事で
よかった



任せたぞ

ああ
俺の方も問題ない
後はさっきの通り
処理をしてくれ

とりあえずこれで
何とかなるか

ふう…



さすがに
疲れたな…

…
赤井

本当に生きて
いたんだな…

ぶっかる肉の感触

鼻孔をかすめる
煙草の臭い

耳に残る

…安室君

低くて甘い声

くそっ

何考えて
るんだ…!

あいつが
スコッチを
殺したような
ものなのに…!

安室君

フウ...

赤井!?

事後処理は概ね順調に進んでいるようだ

…貴方の方から来てくれるなんて

今から第二ラウンドの続きでもしてくれるんですか?

は…はあ!?

そい、

どうしてももう一度君に会いたくなってるね

らや…



：今日は疲れてるので見逃してあげます



君が本気ならもうすでに手が出ていると思うんだが

貴方、俺が貴方を殺したいほど憎んでるって分かってます!?



一応助けていた貸しは返しますから

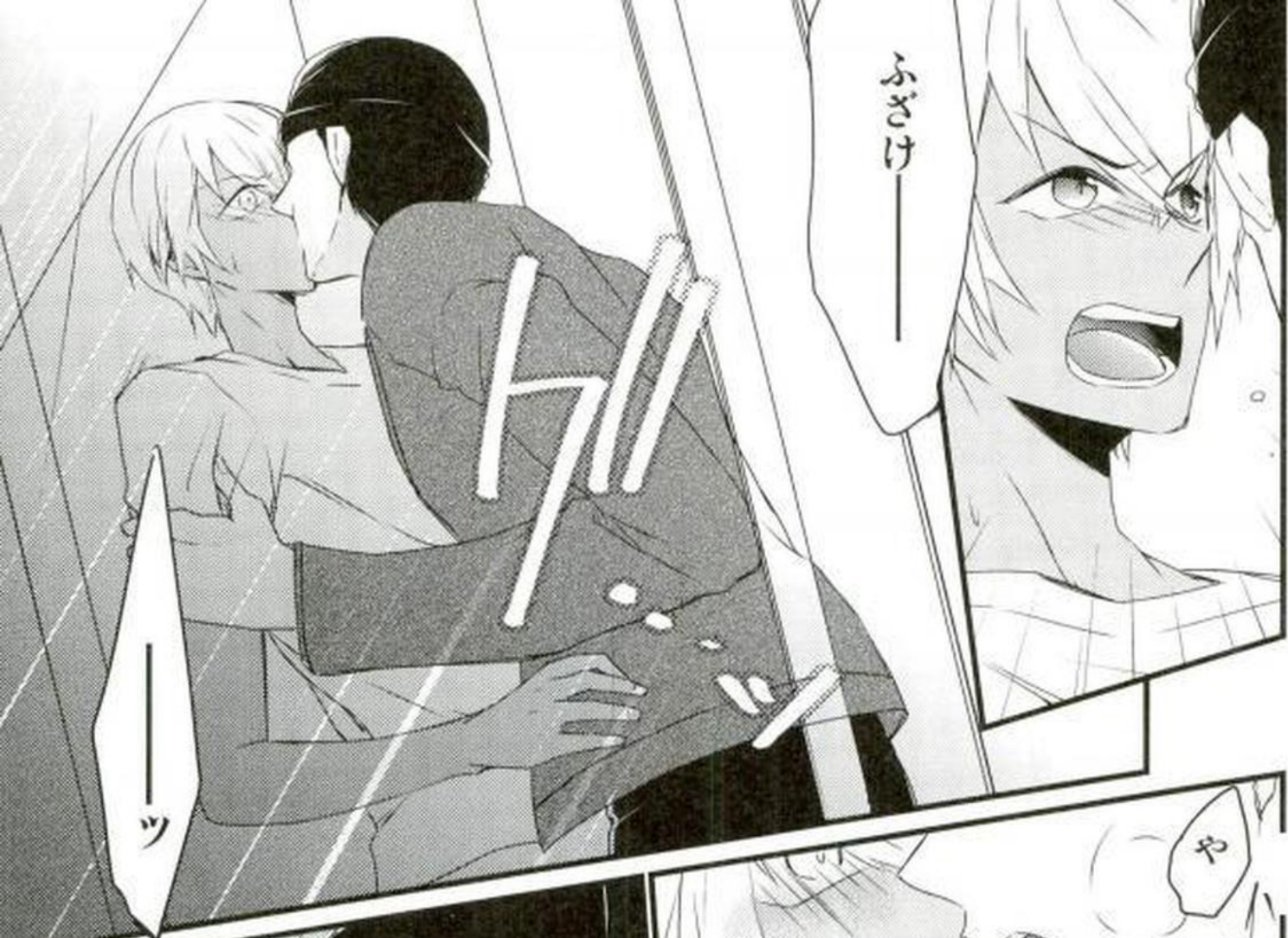


嫌だ、

と言ったら?



帰るんでといてください



ふざけ

ツ



や

ほ

ちょ

んっ

ふはっ

観覧車の上で
手を合わせた時から
君も熱を持てないかと
思っているね

若干
反応している



やめろッ!



ホォー...



こんなただの生理現象ですよ!

最近忙しくて抜いてなかったもので



安室君...

言っときますけどね!



確かに貴方とは何度が寝たことがありますけど

あの時は何か血迷っていただけですし

さつきも言ったように今の僕は貴方を殺したいほど憎んでいるんですよ?

そんな相手に触られるなんて不快以外の何物でもないんです

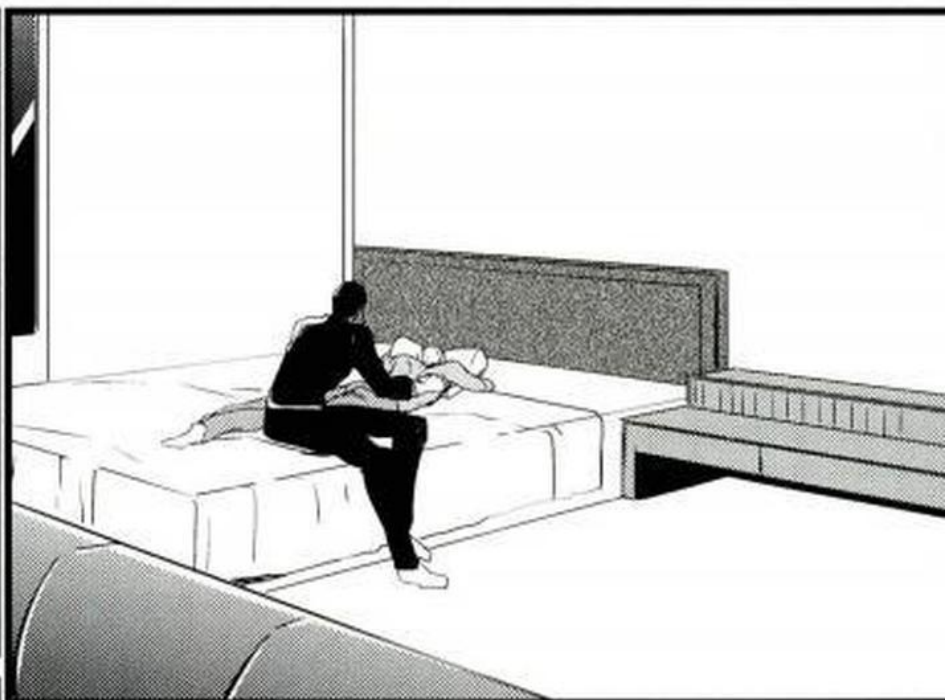
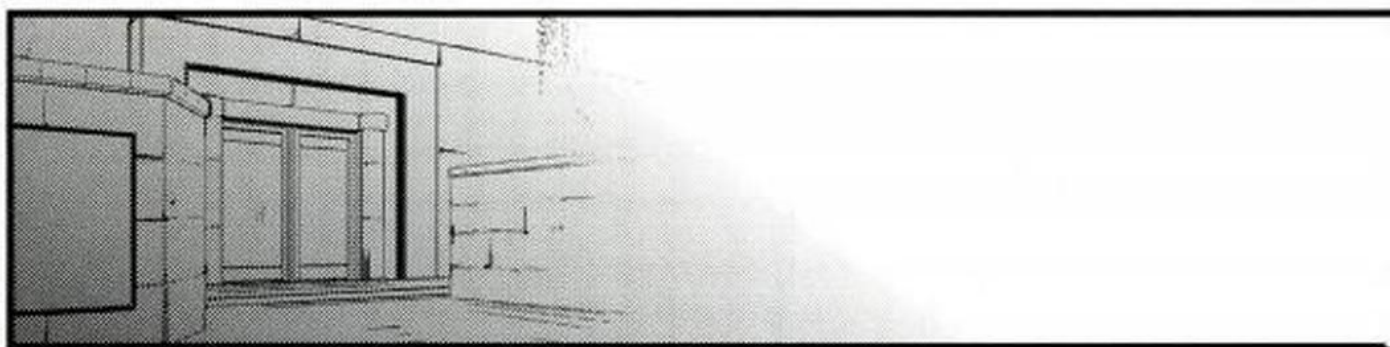
わかったらどいてください!

そうか



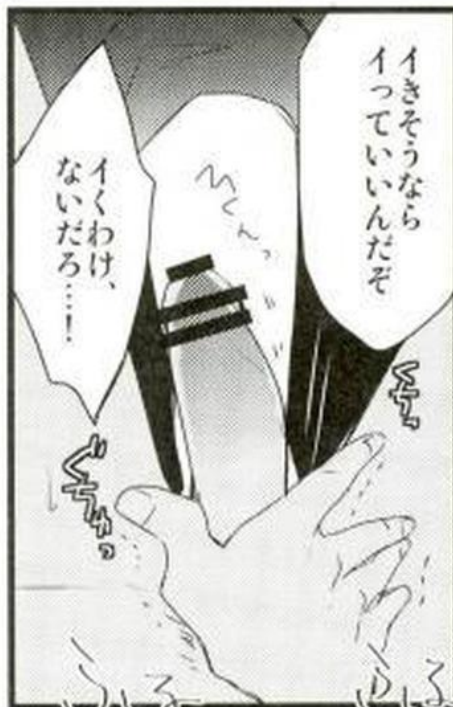
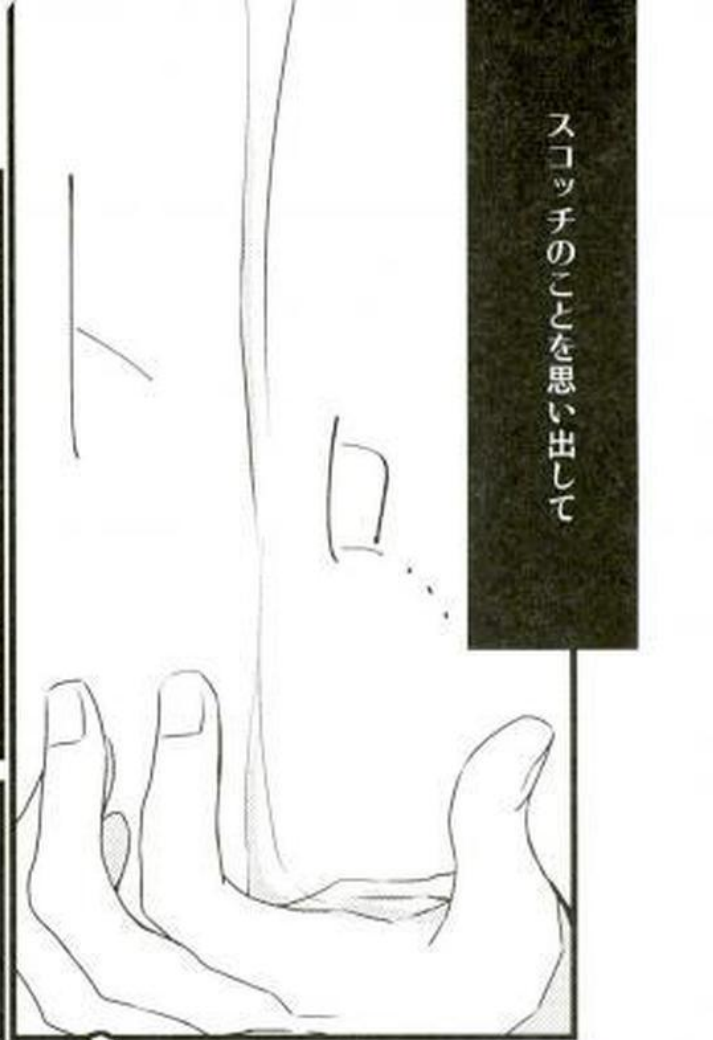
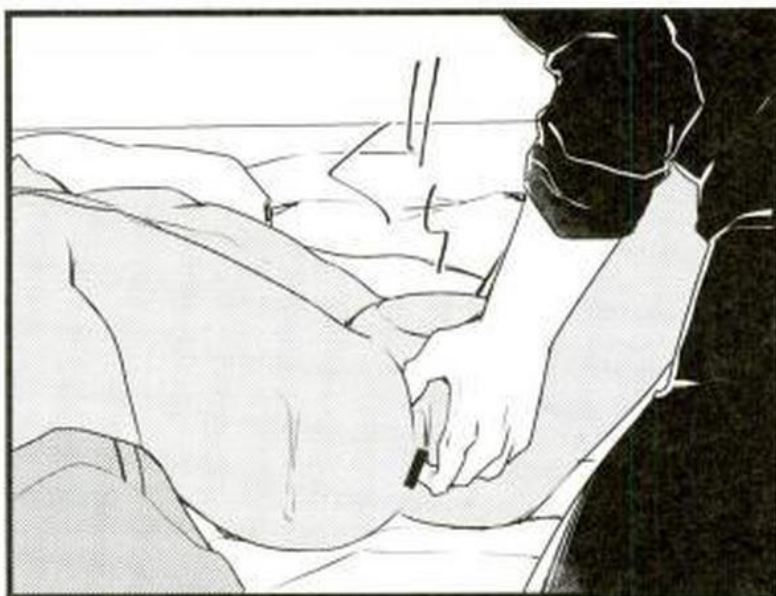


—そう
こなくてはな





スコッチのことを思い出して





殺したいほど憎い男に
抱かれていくくらいなら

死んだ方がまし、です



ホォー…

そこまでとはな



いいから…!

痛い方がいい

だってそなたらっつ



ほら準備は
もういい
でしょう？

さっさと
挿入れて
くださいよ

だがまだきついたらろ
うもう少し解した方が

中を優しく撫でる
この左手がスコッチに
銃を渡して息の根を
止めたんだ

その手で気持ち
よくなるなんて

スコッチへの
裏切りじゃないか

…安室君

…挿入れるぞ



…全部入ったな

はあっ

……動くぞ……っ

はっ

はっ

びん









ちが

だめだ

あかいにされて
イくなんて

だめ
だめ、なのに

も
イきた…っ

アッ

ニッ

いやだ…

あっ

はっ

ごめ

スコッ

チ

も…イく…っ



この状態で
他の男の名前を
呼ぶとは...

あかいつ

てを
はなせ...っ!

マナー違反だぞ
安室君



やっ

なんて

イきた

いかせて...っ

君が言ったん
だろう?

死にたいほど憎い男に
抱かれていくくらいなら

それとも君は
俺のことが
それほど憎くない
のかな？

ちがっ

にくらっ

ころっ

あか

いっ

ト

ッ

びく
く

てつて

てつて
るる

びくわ

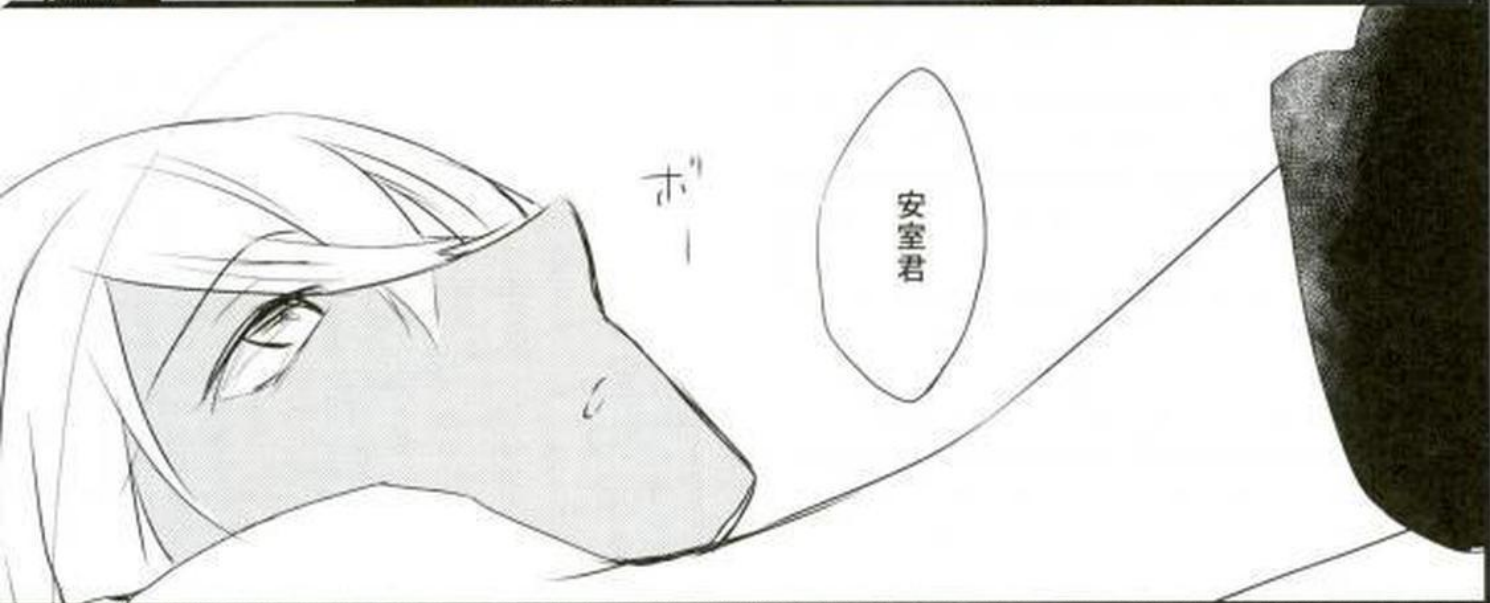
ア
ア
ア



ん



あか
い...?



ホー

安室君



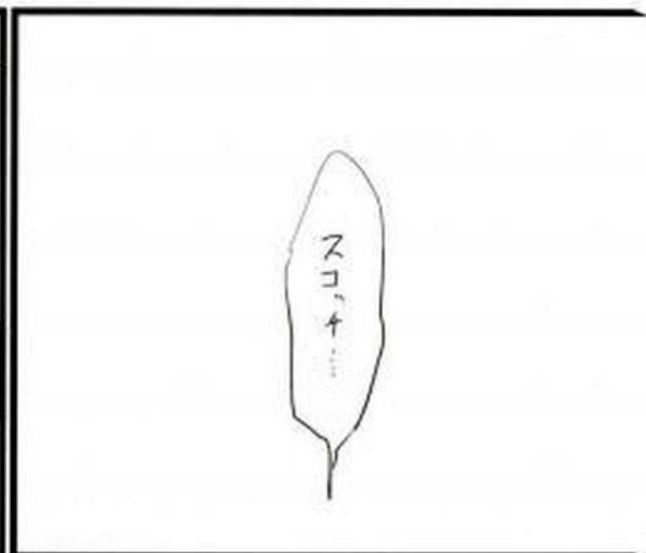
あかいの

手

やっぱり、やさしくて

なのに





そうして
俺はこれからも
この優しい男を
憎んでいく

いつか、
真実にたどり着いて
しまうその日まで

殺したい男に
抱かれて感じる訳
ないじゃないですか